

JTEKT ENGINEERING JOURNAL 創刊にあたって

First Publication of *JTEKT Engineering Journal*

発行人
久保 政 徳*
S. KUBO



2006年1月1日、光洋精工株式会社と豊田工機株式会社
が合併し、株式会社ジェイテクトが誕生いたしました。
このたび技報を無事発行できたこと、ひとえに御客
様をはじめ皆様の格別なるご愛顧と、あたたかいご支援
の賜物と厚くお礼申し上げます。本冊子は、当社技術の
一端を広く公開し、各位のご指導を仰ぎ、業界発展にい
ささかなりとも寄与することを願い、新生ジェイテクト
の記念すべき創刊号としてお届けするものです。光洋精
工と豊田工機はどちらもステアリングをはじめとした開
発、製造の領域で技術を積み重ねてきた会社でした。合
併することで、ステアリング、駆動系部品の自動車部品
から広く産業を支える軸受、工作機械まで、提供出来る
ようになります。

当然のことながら、技術の裾野が広がり、共通の技術
領域となる材料、解析、制御、要素技術等も深耕するこ
ととなります。そのような中で、今まで以上に、研究開
発・技術開発の目標を高く掲げ、世界の最先端を目指し
ていきたいと思えます。

さて、研究開発を取り巻く環境は、地球環境問題に対
応するエネルギー、環境技術の革新、グローバル化の一
層の進展と生産拡大に伴う高品質とコスト競争力確保の
ためのモノづくり技術の向上、中国、韓国の急速な追い
上げに対応する差異化できる先進の技術開発など、大き
な広がりや深さを持ってきております。

これらの背景の中で、当社の重点課題としましては、
革新的な技術・商品開発につながる独創的な基礎研究や
技術開発、コスト・パフォーマンスに優れた高付加価
値商品の開発、モノづくり技術革新につながる工作機械、
生産技術の革新などがあり、今後その実現に向け、合併

した4事業の幅広い技術と深い基盤技術のシナジーを
活かし、以下を重点に取り組んでいきたいと思えます。

まず、シナジー効果をいち早く出すため、将来に向け
た重要開発テーマでありながら、技術力、戦力の面で着
手できなかった先進技術開発テーマの開発を加速し早期
商品化を図っていきます。

次に、オンリーワン技術・商品を創出する要素、基盤
技術の深化、拡大、高品質化を図り、特に、切削加工、
熱処理、鍛造などのモノづくり技術、材料技術およびシ
ミュレーション技術を強化していきます。

さらに、グループ会社を含めた裾野の広い技術開発集
団を統合し、迅速かつ効率的な技術開発が推進できる技
術経営基盤づくりを同時に推進していきます。

鉄は熱い内に打てといいますが、新しい会社が発足し
全員の情熱が高まっている時に、一気に両社の技術を連
鎖的に融合させ飛躍させたいものです。

今後の展開にあたり、私自身の思いを技術者の皆様へ
のお願いとして述べたいと思えます。

合併の目的であるシナジー効果を出すということは、
変えることであり、変えなければシナジーは出ないと考
えていただきたい。即ち、従来のやり方の延長線ではな
く、やり方・考え方・意識を大きく変えステップアップ
することです。両社の技術の融合により技術ポテンシャ
ルは皆さんの想像以上に高まっていますので、より高い
目標にチャレンジし成果をあげていただきたいと思いま
す。

次に、本物の技術論をより活発に行っていただきたい。
本物の技術とは素性の良い、理屈、理論計算で裏付けら
れた、高いロバスト性を持つ技術だと思えます。本物の
技術の展開により、ジェイテクトの商品群とブランドを
リードするオンリーワン技術・商品の開発を実現したい

*専務取締役 研究開発センター長

と思います。

また、これらを通じて世界で活躍できる一流のエンジニアと技術集団の育成を図ってまいりたいと思います。

最後になりましたが、光洋精工株式会社が発行しておりました「Koyo Engineering Journal」、豊田工機株式会社が発行しておりました「豊田工機技報」。共に

新技術、新製品など研究開発の一端を紹介し、皆様のご指導を仰いでまいりました。当技報においても、同様に皆様のご指導を仰ぎ、新たなる価値と技術を皆様に提供して行きたいと思っております。

今後とも皆様の尚一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。